



## 13. お薬の使い方のコツ

### 飲み薬(粉薬・水薬)

#### 乳児の場合

- ◆水薬はそのまま与えます。
- ◆粉薬は少量の湯ざましで練り、ほっぺの内側や上あごに塗りつけ、その後水、湯ざましなどを与えます。粉薬を水などで練るときには、1~2滴ずつ水分を足しながら少しずつ練ってください。
- ◆溶かすときは、一口で飲める量にして、スポイト、スプーンで与えます。ミルクぎらいになると困るので、ミルクに混ぜるのはやめましょう。
- ◆乳首…哺乳瓶を嫌がらないようなら、乳首にシロップを入れて吸わせてみましょう。粉薬の中には水に溶けにくいものもあり、詰まったりすることもありますから注意してください。
- ◆スポイト…ほほの内側にゆっくりと流し込みましょう。舌の上だと味を感じますので、奥の方に薬を入れて味を感じにくくしてあげましょう。奥過ぎるとおせるので注意してください。



#### 幼児の場合

- ◆水薬も粉薬も、なるべくそのまま与える習慣をつけましょう。どうしても嫌がるときは、こどもの好きなもの(アイスクリーム、チョコレート、プリンなど味が濃くて冷たいものや甘いもの)などに混ぜてみましょう。
- ◆市販の服薬補助ゼリーを利用するのもいいでしょう。



### 注意すること

- ◆1回分ずつ、少量の水、少量の食べ物で溶かし、その都度混ぜてください。溶かして放置すると、薬の苦味がでて味が変わったり、抗生物質の場合は効果が落ちることもあるので、溶かした後はすぐに服用させてください。
- ◆抗生物質の中にはスポーツドリンクや酸味のあるジュースなどに混ぜるとかえって苦味が強くなるものもあります。薬剤師にご相談ください。
- ◆粉薬は涼しい場所で湿気を避け、水薬は冷蔵庫で保管してください。水薬は軽く振り混ぜてから1回分ずつ取り分けて飲ませてください。
- ◆こどもの手の届かないところ、こどもの目にふれないところにしまいましょう。

## 坐薬の使い方のポイント

- ◆冷蔵庫で保存してください。
- ◆カットする場合は、外装の上からハサミなどで切りましょう。
- ◆入れにくい場合には坐薬の先や肛門にベビーオイルなどを少し塗ると入れやすくなります。すぐ出てこないように、入れた後30秒程度は肛門部を押さえておくと効果的です。
- ◆解熱用坐薬は38.5℃以上でつらそうにしていたら使います。6時間以上たてば追加できますが、1日3回くらいまでにしましょう。
- ◆吐き気止め(又は、けいれん予防)の坐薬と解熱用坐薬を両方使うときは、吐き気止め(又は、けいれん予防)を先に入れ、30分以上たってから、解熱用坐薬を使います。詳しくはかかりつけ医の指示に従ってください。



## お薬についてのQ&A

### Q. 余ってしまった薬はどのくらいもちますか?

- A. 原則として飲み残した薬は使用しないでください。きょうだいに使うのもダメです。解熱用坐薬は冷蔵庫で保存すれば約1年は大丈夫ですが、体重によって使用量が変わりますので、医師・薬剤師にご相談ください。



### Q. 飲んですぐに吐き出してしまったら?

- A. すぐに吐き出してしまった場合は、薬の成分は吸収されていないことがほとんどです。同じ方法で飲ませてもまたすぐに吐いてしまうかもしれません。無理はせず、時間をあけて別の方法を試してみましょう。飲んでから30分以上たって吐いた場合は、ほとんど吸収されているのでもう一度飲ませる必要はありません。

### Q. 坐薬を入れて便をしてしまったら?

- A. 30分程度経っていて、その中に坐薬の形がない場合は追加の使用は控えてください。坐薬を入れてすぐ便をしてしまった時には、あまり吸収されていないので、再度使ってもかまいません。

### Q. 乳幼児の服用は、食後の方がいいですか?

- A. 食後だとお腹がいっぱいで飲めなかったり、食べ物と一緒に吐いたりすることがあります。主治医から特別な指示がない限りは、食前・食後にこだわらず、時間になったら飲ませてもかまいません。

薬は指示どおりに飲まなければ、意味がありません。飲みにくいときは遠慮なく、医師・薬剤師にご相談ください。

